

「VICTORY!」は『湘南ベルマーレ』というJリーグチームのホームタウンに住むみなさんに、サッカーを通じてより多くの人とふれあい、地域への思いを深め、スポーツの楽しさを肌で感じていただきたい、そんな願いを込めてASAをお届けする情報紙です。

企画・制作 / 株式会社 朝日新聞経営研究センター 協力 / 株式会社 湘南ベルマーレ



秒速で進化する新鮮力。

入学したばかりの大学を中退してまで選んだ道。もう後戻りはできない。前進あるのみ。

今回のハン グギョン選手のインタビューは、チームの副務兼韓国語通訳である安竜鎮さんを通じて行われた。ハン選手は熱心に日本語を勉強しているものの、まだ長い言葉のやりとりをするのは難しい。「韓国でサッカーをしていたころと比べて大きな違いは、やはり言葉の壁があること」と言う。プレー中も自分の思いをストレートに伝えられないもどかしさを常に感じているようだ。しかしその壁を乗り越えるために、自分から積極的にチームメイトとコンタクトを取り、コミュニケーションする努力を怠らない。

ハン選手がサッカーを始めたのは小学校6年生の時。プロのサッカー選手としては、日本でも韓国でも少し遅いスタートかもしれない。「フランスワールドカップのとき、自分は8歳だったんですが、兄と夜中まで夢中になってテレビで観戦していました。サッカーにのめり込むきっかけとなった大会でした。そのころから自分でもサッカーをやりたいと思ったけれど、両親が賛成してくれなかった」。それでも根気よく両親の説得を続けた。ついに彼の熱意が勝り、小学校のクラブでサッカーを始めることになったのが6年生のとき。中学校に進んでからもサッカーの舞台は学校のクラブだった。「自分も才能があったわけではないし、学校のクラブだったので、それほどレベルの高いチームでもなかった。それでもサッカーをできることが楽しくて一生懸命練習しました」。

韓国でもサッカー人気は高く、多くの少年たちが幼いころからサッカーを始める。しかしその競争は激しく、高校生になるころにはほとんどが止めてしまうそうだ。多くは語らないが、彼の両親も息子がそんな厳しい世界に足を踏み入れることを案じていたのかもしれない。「中学生のころには、プロサッカー選手を目指すようになっていました。夢を叶えたいという意思が強かったので、止めるつもりはなかった」。

高校に進学し良い指導者との出会いもあって、ハン選手の夢はより現実味を帯びてきた。U-17韓国代表に選ばれ、U-20ではかつてベルマーレに在籍していた洪明甫(ホン ミョンボ)監督の指導も受けた。一度は大学に入学したが、ベルマーレからのオファーを受けて1年で退学。来日した。「韓国のKリーグより、Jリーグでプレーすることを目指して準備していました。そのほうがより多くのことを学べると思ったので」。

今、日本で生活し、練習し、J1の試合に出場できること。その1秒1秒がとても大切だし幸せだと思っています。この環境を与えてもらったことに感謝し、もっと練習して早く実力をつけ、日本語もうまく話せるようになります。(日本語で)『がんばります!』。

初めて先発で出場した4月25日の仙台戦では、1万人の観客が詰めかけたスタジアムのピッチに立ち、緊張で足が震えたそうだ。「チームメイトが、みんな僕の頭をたたいていった。リラックスさせてくれようとしたんです。試合が始まって何度かボールに触るうちに、雰囲気にも馴染むことができました」。仙台には1対0で勝利し、初めて『勝利のダンス』の列に加わることもできた。

「ベルマーレのサッカーは今までの自分のスタイルと違っていたので、チームコンセプトを理解し、慣れるまでは本当に大変だった。でも反町監督から素晴らしい指導を受けられて、自分が一番成長できる環境に来ることができたと思っています。攻守ともにハードワークを要求されるので、もっとスタミナをつけたい。まだまだです。チームメイトにも上手い選手がたくさんいるし、対戦相手のプレーを見て学ぶことも多い。ガンバの遠藤選手やフロンターレの中村憲剛選手はとても勉強になりました」。

自らの性格を「人見知りで内向的」と言う。「初めて会った人には自分から話しかけられないです。少し仲良くなれば、どんどん話せるんだけど...」。それでもピッチに立つと「負けず嫌いの強気が出るところで顔を赤くする。ナビスコ杯の浦和戦では、満員の浦和サポーターから受けたブーイングに、手を耳にかざして応えたり、接触プレーに文句を言って詰め寄ってきたポンテ選手に、一歩も引かず睨み返したり...。肝のすわった一面を見せた」。

「将来の目標を今、語るのには恥ずかしいけれど、いつかプレミアリーグのリバプールでプレーしたいと思っています」と控えめに話すハン選手。憧れは、京都サンガからオランダリーグを経て、プレミアリーグ・マンチェスターユナイテッドで活躍するパクチソン選手。「努力して一段一段ステップを上り、夢の舞台に立った。その過程を見習いたい」。そのパクチソン選手も選出されているW杯韓国代表については「クジャ Chol選手やキソンヨン選手は同年代だし、ラ」



No.15 MF
ハン グギョン

イバルとして気になる存在。でも今、自分のやるべきことはベルマーレで力をつけること、チームの勝利に貢献することです」。

好きな食べ物は「焼き肉と寿司。日本の食べ物は、なんでも美味しく食べられます。ときどき母が手料理を送ってくれるので、故郷の味も忘れないです」。5月中旬には韓国の両親が平塚を訪れた。「G大阪戦、浦和戦、磐田戦を観戦して帰国しました。父は分析家なので、試合の感想をいろいろ言っていました(笑)はじめるはサッカーをすることに反対していた両親ですが、今は子どもの幸せと成功を願って応援しています。僕はサッカーをしているときに一番幸せなのを理解してくれているのです」。残念ながら今回の来日で、両親にチームの勝利を見せることはできなかった。が、日本に来て約半年、ハン グギョン選手の成長は誰もが認めるところだろう。1試合ごとに何かを学び、手応えを力に変えようとする意欲に、おのずと結果はついてくるに違いない。

ハン グギョン	Profile	MF	No.15
1990年4月19日生(20歳)	出身地:韓国 ソウル		
Kリーグからのオファーも受けたが、大学を1年で中退して来日。今季湘南ベルマーレに入団。豊富な運動量で攻守にわたって献身的にプレーする姿にサポーターからの信頼も厚い。			
			183cm/73kg

Fリーガー vs. Jリーガー フットサルマッチ 湘南ベルマーレフットボールフェスタ 2010

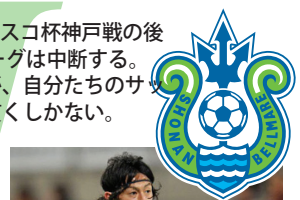
国内初! JリーガーとFリーガーの真剣勝負。勝敗の行くえは?

6月10日(木) 藤沢市秋葉台文化体育館にて国内初となる現役JリーガーとFリーガーによるフットサルマッチ「湘南ベルマーレフットボールフェスタ2010」が開催されます。総合型スポーツクラブとして、サッカーとフットサルの両方のチームを運営する湘南ベルマーレだからこそ実現した湘南同志の真っ向勝負。11年ぶりのJ1

の舞台で奮闘を続けるサッカーチームと8月のFリーグ開幕を控え新体制で臨むフットサルクラブのドリームマッチはどちらのファンも見逃せません。Fリーグの開幕が待ちきれない人も、フットサル未経験のサッカーファンも、アリーナで繰り広げられる熱い一戦に注目です。前売券はお早めにお求めください。



6月9日ナビスコ杯神戸戦の後W杯のためリーグは中断する。苦しい状況だが、自分たちのサッカーを信じて貫くしかない。



今季キャプテンを務める久光重貴選手。「今シーズン目指すのは、優勝の2文字。応援してくれるみなさんの期待を力に変えて頑張ります」。

湘南ベルマーレフットボールフェスタ 2010

対戦 湘南ベルマーレフットサルクラブ vs. 湘南ベルマーレ
日時 6月10日(木) 19:00 キックオフ
会場 藤沢市秋葉台文化体育館 (藤沢市遠藤 2000-1)

☆チケットについて☆
入場料 大人/2,000円 小中高/1,000円 ※全席自由 (前売・当日同額)
販売場所 チケットぴあ、ローソンチケット 湘南ベルマーレクラブ事務所
※前売券完売の場合、当日券の発売はありません。

